

第2回 健全育成分科会 議事録

分科会：第2分科会「自己肯定感の醸成」

作成者：吉井（サブリーダー）

開催日：2018/9/22（土）9：30～12：00

会 場：シルクセンター小会議室

参加者：鶴見総合、保土ヶ谷、住吉、平塚中等教育（2）伊志田、相模原、OB、校長、
高P連（4名） 13名

内 容：【自己肯定感をあげるために】

講師：後藤 健夫氏

〈自己肯定感をあげるために〉

「やり甲斐を持つ」

自己肯定感ってなに？

「GRIT(やり抜く力)の大切さ」

自分に自信を持つこと

〈若者の未来はどうなるのか？〉

- ・ 少子高齢化が進み、二人が一人を支える時代となり、生産年齢人口の減少→経済の沈滞化
大学の就職状況は売り手市場、人材不足
AIが発達すると仕事が奪われる？→ 仕事はなくなるものもあれば、生まれるものもある。
- ・ 複雑化する国際社会
当事者でない日本は、お金を出し続けているが、今後もそれが可能なのか？
- ・ 地方消滅の危機
地方から出れば、戻って来ることができない。
学校の統廃合も進んでいる。先生の数が減るが、Edtech(Education+Technology)が進めば、先生も要らない？
小学校の場合、通学困難者が出るため、バス等の行政支援が必要となる。
コミュニティの場が失われ、地域が活性化されない。

若者の未来は決して明るいとはいえない。このような問題を考え、彼らを支えなければ、自己肯定感をあげることはできない。

〈未来を明るくするのは、教育である〉

- ・ 今までの学力重視の入試は、自己肯定感を下げ、AO 推薦入試は自己肯定感を上げる。
これからの大学入試は、今までのような落とすための試験ではなく、良いところを取り上げる方向に変わる。得意なことを頑張る教育で、自己肯定感を上げやすくなる。
- ・ 未来を共有し、みんなで寄り添って一緒に考えると希望が持てる。自己肯定感が上がる。
- ・ 自己肯定感を上げるための、教育の質的転換

受動的学習(Teaching)→能動的学習(Active learning)

能動的学習は、言われたこと強いられたことをやるのではなく、主体的に学ぶことで、学習者が主体になる。

受動的な学習が得意なのはコンピューターで、今後コンピューターには勝てない。

教師は、学習者がより学びやすい状況につれていくナビゲーションの役割を担う、という方向に変わらざるを得ない。

今まで自分たちが受けてきた教育とは違うやり方で、教える必要がある。

より良い教育＝より良い先生

先生も保護者も変わる必要がある。保護者は先生方を励ます立場で、笑顔で接しましょう！

アクティブラーニング＝学習者の脳をいかに活性化させるか？「脳働的学習」

〈これからの教育に求められるもの〉

- 中下位者の学習意欲の減退を解消するために→やり甲斐と探求のタネを与える
「今がんばってどうなるの？」「今がよければいい、明日のことはわからない」状態では、やり甲斐は生まれません。

探究心…分からないこと、問いを見つけようとする姿勢。
- 今の授業にはない、タネをどんどん投げて、見つけさせるような授業が求められている。
- 子供を励まし、やりがいを見つける。(学校のり・デザイン by 武藤隆 原稿写真あり)
- 期待する。
- 求められる職業…データサイエンティストアントレプレナー(データ解析する社会企業家)
彼らが提議する問題点…基礎と自信を身につける中等教育の質をいかに担保するのか
中高時代に、数学、英語、ICT(情報通信技術)を身につけると自信がつく。
- 問題発見解決能力、自然言語(英語等)、人口言語(プログラミング)を身につける。
- 私大文系大学はいつまで成立するか？
今後、AIに取って代わられる多くの仕事があり、世の中の変化についていけるか→
「文理分断からの脱却」文系志望は、高1から数学の授業をしなくても良いのだろうか？
- eポートフォリオ(活動歴)の導入
経験そのものではなく、経験を通して得たものに個人の成長が結びついているかが重要
GRIT(やり抜く力)のある者が、大学に入ってから伸びていく
一般入試での入学者は1,2年生時の成績が良いが、AO入試での入学者は、専門を学び始める3,4年になると伸びる。しかし、高校時代の評定が良い生徒は、大学でも良い成績が取れるという事実はある。→あまり良いことではない？
- 非認知能力も図ることはできる。
「部活動と学校行事は最高のPBL(プロジェクトベースライン)の場だ」
PBL…ひとつの課題に、みんなで取り組む力。役割分担と「個人の成長」が認められる。
- 国際バカロレアのCAS(創造性、活動、奉仕)
自分自身の長所と今後の成長分野についての認識を高めた

新しいことに挑戦した
活動計画を開始した
他の人と協働した
粘り強さと活動への深い関わりを示した
グローバルな重要性のある問題に取り組んだ
活動の倫理的な意味を考察した
新しいスキルを身につけた

以上を評価することにより得点をつけることができる。

• 「経験学習サイクル」の重要性

計画→行動→観察→振り返り→計画・・・PDCA サイクル

振り返りは重要で、学習したことを新たな状況に活用することができ、成長につながる。

〈知識爆発の時代に何を学ぶのか?〉

• 知識はどんどん増えているが、問題は、それらをいかに使うか?

「学び方を学ぶ」「メタ学び」

技術は日進月歩、今の技術はすぐに沈下する。技術の学び方を知れば、新しい技術を学ぶことができる。

• 読書率を上げる。

経験が少ないといわれている子供が、読書を通じて引き出しを増やし、正解のない問いに挑め、さまざまな疑似体験ができる。つまり経験を概念化できる。

• 「優秀」の定義が変わる。

正解はコンピューターが答えてくれる。これからは正解のない問いが増えていく。知識よりもいかに問題解決ができるかが求められる。

あらかじめ正解が用意されていた時代では、新しいことが生まれず、考える必要がない。これからは、問題解決に向けて課題を設定し、必ずしもひとつの正解があるとは限らない、脱正解主義へ。

〈多様性、多様な価値観を享受できる人間を育てる〉

- 自分に自信がなければ、「自分は何者か?」という他人からの問いに答えられない
→identity が求められる →自己肯定感の向上につながる。

一生学び続ける時代に、いかに学ぶかを問われている時代